

学生と教員の見方



【アピールポイント】
私は野球観戦が大好きで北海道日本ハムファイターズを応援しています。現地にはまだ行ったことはないですが将来行きたいです。

【学生の見方&考え方】

(3年 小峯薫)

長野県の白馬エリア(大町市・白馬村・小谷村)と北海道のニセコ町では、冬季のスキー観光に依存してきた従来の観光構造を見直し、年間を通じて観光客を呼び込む「通年観光」による地域再生に力を入れている。これまで冬のスキーシーズンに集中していた観光需要を分散させ、外国人旅行者を含む多様な層の誘致を目指す取り組みが進んでいる。

白馬エリアでは、特に夏季の観光需要が顕著に伸びている。日本政府観光局(JNTO)の発表による

地域の再生と多様性の共存②

と、23年の夏期観光客数は19年比で162%増となり、約266万人に達した。さらに24年には271万人と、2000年代初頭の水準まで回復している。宿泊者数や旅行消費額も前年より15%以上増加しており、登山大会やマウンテンバイク、トレイルランニングなど、アウトドアを中心とした夏季イベントの充実がこの成長を後押ししている。自然豊かな環境を生かしたアクティビティが、国内外の観光客に支持されている。

一方、ニセコ町でも通年観光へのシフトが進められており、ラフティングやゴルフなどのアクティビティに加え、国際学校によるサ
【教員による展開】
(山本卓教授)

既存の自然や文化資源を再定義し、季節を問わず多様な層の観光客を惹きつけている点が共通しており、通年観光の成功モデルとして注目されている。白馬とニセコの挑戦は、日本の地方が持続可能な観光モデルを構築する上で重要な試金石となっており、今後の展開に期待されている。

例えば、外国人誘致による経済効果が地域住民の生活や雇用にどう波及しているのか、また観光開発が地域文化や自然環境に与える影響についても検討の余地がある。さらに、海外事例との比較では、制度的背景や地域のガバナンスの違いにも着目すると、より深い分析が可能となるだろう。全体として、地域の現状と課題を的確に捉えており、今後の発展的な考察に期待したい。

外国人誘致で進む地方再生

白馬とニセコの挑戦

【教員による展開】
(山本卓教授)

学生の記事は、白馬とニセコという具体的な地域をとり上げ、通年観光による地方再生の取り組みを丁寧に描写している。特に、統計データを用いて観光客数